※令和３年度以前入学生用

学校番号	T0203

令和５年度　家庭科

教科	家庭	科目	家庭総合（通信）	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	『家庭総合　ともに生きる・未来をつくる』（実教出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者とのかかわりと福祉、消費生活、衣食住に関する知識と技術を総合的に習得します。家庭や地域の生活課題の解決と、生活の充実向上のための、実践的な態度を育てます。

2　学習の到達目標

・人の一生を生涯発達の視点でとらえ、男女が協力して家庭を築くことの重要性を認識し、考える姿勢を身につけます。
・子どもや高齢者のかかわりと福祉を通して、さまざまな人々に対する理解を深め、家族および地域や社会の果たす役割について考える力を身につけます。
・生活における経済の計画、消費者問題や消費者の権利と責任について理解し、適切な意思決定に基づいて、責任を持って行動できるよう意識を高めます。
・衣食住の学習を通して、持続可能な社会を目指したライフスタイルを確立できるよう、安全と環境に配慮した衣食住生活を営む姿勢を育てます。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	経済生活・高齢社会・保育・衣生活・住生活・食生活について感心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。	経済生活・高齢社会・保育・衣生活・住生活・食生活について課題を見いだし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	経済生活・高齢社会・保育・衣生活・住生活・食生活に関する基礎的・基本的な技能を身につけている。	経済生活・高齢社会・保育・衣生活・住生活・食生活に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。
評価方法	・プリントの感想欄等の記述 ・授業に向かう姿勢	・プリントのワーク欄等の記述 ・定期考査の結果	・実習の技能 ・実習のレポートの記述 ・定期考査の結果	・定期考査の結果 ・映像の鑑賞 ・提出プリントの記述

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	青年期の自立と家族・家庭及び社会	発達段階と人生の課題	○		○		a:自身の人生について興味・関心を持てている b:自身の人生を主体的に捉え自身の考えを持つことができる c:発達課題を解決する方法を持つことができる d:労働関連法規や人生設計に関する正しい知識を身につけている	レポート 考査
		職業労働と生活設計	○	○		○		
	子どもとの関わりと保育・福祉	生命の誕生	○	○			a:保育について興味・関心を持てている b:保育について自身の考えを持つことができる c:保育環境の問題を解決するための方法を実行することができる d:子どもの発達について正しい知識を身につけている	
		心の発達	○			○		
		子どもがすこやかに育つ環境	○	○	○			
	高齢者との関わりと福祉	高齢者の社会参加		○	○		a:高齢社会について興味・関心を持てている b:介護について自身の考えを持つことができる c:介護についての基本的な技術が身についている d:高齢化に伴う進退の変化について正しい知識を身につけている	
		社会に暮らすみんなのための福祉	○			○		

※令和３年度以前入学生用

後期	衣食住の生活の科学と文化	人の体に必要な栄養素	○			○	a:現代の環境問題について興味・関心を持てている b:環境と住生活の関わりについて自身の考えを持つことができる c:環境に配慮した衣生活を営むことができる d:現代の環境問題について正しい知識を身につけている	レポート 考査
		食生活と環境のかかわり	○			○		
		衣服のリサイクル	○		○			
		安全と環境に配慮した住まい		○		○		
	消費者とて自立する	主体的な消費行動	○		○		a:現代の消費者問題について興味・関心を持てている b:消費者の権利について自身の考えを持つことができる c:主体的な消費行動ができる d:消費者の権利について正しい知識を身につけている	
		消費者の権利を守るために	○	○		○		

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現
c:技能　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。